

令和 2 年 5 月 28 日現在

機関番号：32690

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04583

研究課題名(和文) 共生のためのジェネレーション・センシティブな平和教育：慈善行為の齎す教育的価値

研究課題名(英文) Peace Education with the senses of generation for living together: educational value in philanthropy

研究代表者

井手 華奈子 (IDE, Kanako)

創価大学・教育学部・准教授

研究者番号：30532444

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：大人への教育的アプローチと子どもへの教育的アプローチの分類と確立、相互の関係性の解明が必要であることを第一段階として証明し、第二段階として世代間連携を重視する共生概念の構築を模索することができた。沖縄在住の日米慈善家の協同活動の実例を通じ、共生教育は、世代間でリネアに継承される再生産型の教育としてではなく、世代間のリカーシブな教育的連携によって継続的に更新され続ける民主主義的な取り組みとして理解されなくてはならないことを証明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、現在進行形でおこっている具体的な事例から、共生の概念を哲学的にさらに発展させていくという点にあったといえよう。本研究の社会的意義は70年以上にわたって沖縄に駐留し続けている米軍基地の問題とそこから派生する様々な事象について、政治的にも社会的にも文化的にもこれまであまり関心が向けられてこなかった側面を「正面」に据えてみることで、政治的な対立を絶妙にかわせるような立場や行動や友好が存在していることを証明したことである。

研究成果の概要(英文)：The research theoretically contributed (1) to distinguish the issues on peace education for adults to the issues on peace education for children (2) to examine the educational relationship between two and (3) to develop the concept of living together from the view point of generation. As a situated philosophy research, the research focused on a specific example to deliberate these three research questions: cooperative philanthropic activities among American Military associates, American military spouses, and local women in Okinawa. The conclusion of the research is that the foundational idea of the education for living together should be imagined not as a linear learning model, but as a recursive learning model.

研究分野：教育哲学

キーワード：平和教育 沖縄 女性 米軍基地 慈善活動 フレンドシップ 先住民の哲学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の研究開始当初の背景は以下のようなものであった。平和問題の解決を試みる教育的アプローチには立場による差異が認められるという主張に基づきながら、在日アメリカ人の抱える諸問題の解決には、大人への教育的アプローチと子どもへの教育的アプローチの分類と確立、相互の関係性の解明が必要であることを第一段階として証明し、第二段階として世代間連携を重視する共生概念の構築を模索することであった。そして、沖縄在住の日米慈善家の協同活動の実例を通じ、共生教育は、世代間でリニアに継承される再生産型の教育としてではなく、世代間のリカーシブな教育的連携によって継続的に更新され続ける民主主義的な取り組みとして理解されなくてはならないことを証明する。これが本研究の基本的関心であった。

また、わが国には、第二次世界大戦以降、子どもを学習対象者とした平和教育の実践活動や学術的研究は学校教育の主要な関心事項の一つとして発達してきた経緯がある一方で、大人を学習対象者とした平和教育の実践活動の報告や学術的研究は乏しい。さらに、宗教学や社会学的見地からのフィランスロピー研究の成果報告はあるが、慈善行為の齎す教育的価値について平和教育の視点から解説した学術的研究はまだなかった。それに対して特に申請当時の西洋諸外国では、難民大量移入現象が困窮者を援助したいという良心と自国の平和が脅かされることへの懸念とのジレンマに住民を陥れ、結果として社会不安定化の一因となっていた。この難局を乗り越えるため、新たな共生概念の研究は急務の課題として関心がよせられていた時であり、多文化共生を実現するための学術・実践研究の報告はあるが、世代に着目した、大人のための平和・共生教育への要望への応答はまだなかった。

### 2. 研究の目的

世代間の教育的ニーズの差異に着目し、大人のための平和教育と子どものための平和教育の分類と関係性について考察することで、共生の概念を発展させることが本研究の目的であった。具体的には、米軍の駐留により誕生した在日アメリカ人の子ども達のための慈善事業の事例を通じ、世代間継承型から世代間連携型へと共生の概念を再構成することであった。(1)教育的課題は世代によって類別が可能であることを Situated Philosophy によって証明することと (2)民主主義理論の枠組みを応用し、子どもと大人が相互に学びゆく平和実現のための共生教育の思想基盤について究明すること、以上の2点であった。

### 3. 研究の方法

共生概念の発達のためには、大人のための平和教育の確立が必要であることをアメリカ人への慈善事業の事例から証明するために、第一に、沖縄の日米双方の慈善家の協力を得ることが不可欠であることを確認し、第二に、援助者の立場に立つ大人達が慈善行為から学習した事柄を明らかにする。そして、世代による教育的課題の分類を試み、その差異と関係性を確認・比較し、子どもと大人の相互連携によって継続的な更新が可能な共生概念を模索する。最終的に、民主主義的性質をもつ共生概念の発展へ貢献するために習得されるべき大人の態度を大人のための平和教育として究明することが本研究の課題である。

課題達成のために応用した研究手法は次のとおりである。

- (A) 在沖縄米国人と地元沖縄住民が協力して推進してきたアメリカ人の子ども達のための慈善事業に関連する資料・史料・個人記録を収集しナラティブを構築する。
- (B) (A)のナラティブから、慈善事業を通して「子どもが享受したもの」と「大人が享受したもの」に分類しその差異を明らかにする。
- (C) 共生のために必要な教育的課題は世代によって異なることを指摘することで、大人のための教育的ニーズを継続的に満たしていくことの必要性を論証し、さらに、世代間の教育的な相互依存関係の確立によって継続的に更新可能な共生概念を概念考察の手法を用いながら構築する。

### 4. 研究成果

現時点で以下の三つがあげられる。第一に、多様性に対してセンシティブな共生概念について、人種・民族・階級・ジェンダー等の伝統的な項目からではなく、世代間の差異に着目したジェネレーション・センシティブな共生観の必要性を確認することができたことである。共生の概念研究のさらなる発展に寄与することができた。第二に、大人と子どもの教育的関係の再検討の試み

について申請者はこれまでに一定の研究成果をあげてはいたが、具体的な事例の中で概念研究を遂行したことで、大人への教育に対する認識のあり方についてより具体的な提案を示すことができた。第三に、教育学的視点から慈善事業を再解釈することは、プロセスにおける援助者・被援助者の教育的体験を活動の成果と価値づけることを意味することを証明できた。立場の異なる人々が協力し民主主義的に道徳的な発展を目指す Morality of Association の論理的枠組みを組み込むことは、慈善行為の根源的な目的を物質的援助から共生のための学習機会へと転換させることを意味し、慈善行為の教育的役割という新たな可能性を示唆することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Kanao Ide	4. 巻 Chapter 9
2. 論文標題 Living Together with National Border Lines and Nationalisms	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Palgrave Handbook of Global Citizenship and Education	6. 最初と最後の頁 133-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1057/978-1-137-59733-5_9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 7件/うち国際学会 7件）

1. 発表者名 Kanao Ide
2. 発表標題 Peace Vibration on the Island: `Yuimahruh` and the Cultivation of American Military Spouses` Spirit of Philanthropy in Okinawa
3. 学会等名 Philosophy of Education Society of Australasia（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kanao Ide & Shoko Exterstein
2. 発表標題 "Regardless of Ability or Disability: Common Educational Needs for Amerasian Children in Okinawa." As a Part of `Lest We Forget`: Remembering Children as Democratic Citizens with Di Paolantonio, M. & Laverty, M.
3. 学会等名 Philosophy of Education Society of Australasia（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kanao Ide
2. 発表標題 Seeking Peace in Higher Education
3. 学会等名 Philosophy of Education Society of Australasia（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kanao Ide
2. 発表標題 On Learning Peace in Higher Education
3. 学会等名 The Purpose of Te Future University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kanao Ide
2. 発表標題 Acrobatic Friendship among Philanthropists under the Condition of Polarity
3. 学会等名 the Disagreement, (in)Tolerance and Political Discouse held at Centre for Ethics as Study in Human Value (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kanao Ide
2. 発表標題 Acrobatic Friendship as a Way of Peace and Education
3. 学会等名 Concerned Philosophers for Peace (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kanao Ide
2. 発表標題 Acrobatic Friendship: Peace Education for Adults in the Midst of the Political Storm
3. 学会等名 American Educational Studies Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----